



# 新たなスポーツ環境と スポーツ指導者

## 1 スポーツ指導活動の場

我が国のスポーツは、競技スポーツにおいては学校運動部、企業スポーツなどを中心に、生涯スポーツにおいては、スポーツ少年団やママさんバレーなど地域のスポーツクラブ又は民間のスイミングクラブやフィットネスクラブ等を中心に発展してきました。

このことから、学校を卒業したり、所属クラブを辞めてしまうとスポーツと離れてしまうことが多く、生涯にわたってスポーツに親しむ環境が整っていない状況でした。

また、地域のスポーツクラブの多くが単一種目で、性別、年齢等が限定され、閉鎖的な傾向があることも、スポーツをしたい人が、個々人の要求に合わせ、いつでも、どこでもスポーツができる状況にはありませんでした。

しかし、近年、国民の一人ひとりが自己の能力や興味・関心、ライフスタイルなどに応じて主体的にスポーツを実施していくという生涯スポーツ社会の実現を図るために、多様なニーズを包含し、多様な活動が可能となる地域に密着した総合型地域スポーツクラブの育成や、そのサポートなどを行う広域スポーツセンターの設置等、従前の施策に加え、新たな視点からの施策が打ち出され、その取り組みが進んでいます。

## 2 地域スポーツクラブとスポーツ指導者

### 総合型地域スポーツクラブの特徴と可能性

近年、スポーツを「する」「みる」「ささえる」などの楽しさや自己の充実を味わう場として、地域、学校、家庭、企業、行政が一体となって、すべての人が参加できる地域のスポーツクラブを「つくる」試みが全国各地で広がっています。それが、新しいスポーツ活動の場としての総合型地域スポーツクラブづくりです。

総合型地域スポーツクラブの「地域」とは、特に定義されたものではありませんが、概ね中学校区程度の範囲とされています。

総合型地域スポーツクラブは、様々な考えや目的を持ったメンバーの自主的かつ連帯性のあるクラブであり、学校開放等を利用して個人的にあるいは少人数でスポーツを行う人、スポーツ大会やスポーツ教室等に参加してスポーツを行う人、さらにはスポーツを行わない人のスポーツニーズを満たすことを目指しています。

ここでは、スポーツタレントの発掘・育成、一貫指導も併せて実施することで、中長期的な視点からの競技者育成も期待できます。

また、これまで日本のスポーツを支えてきた企業スポーツ等が縮小・衰退する中、その新しい受け皿として総合型地域スポーツクラブへの期待が高まっています。

一貫した指導理念・方法のもと、スポーツを行う環境を備えた総合型地域スポーツクラブが、指導者の新しい活動の場として、また競技者の新しい活動基盤として期待されています。



このように総合型地域スポーツクラブは、生涯スポーツ、競技スポーツ、学校体育・スポーツを包含した、わが国の新しいスポーツ基盤として、そして魅力ある地域社会を形成する新たな試みとして、様々な波及効果が期待される中、官民一体となった整備が求められています。

## 総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導者

この新たなスポーツ活動の場としての総合型地域スポーツクラブも、資質の高いスポーツ指導者の活躍なくしては、期待どおりの活動とはなりません。

地域のスポーツ環境の整備と競技者育成の基盤となる総合型地域スポーツクラブでは、多種多様な志向と様々なニーズを持ったクラブ会員に対して、どのような人材が必要でしょうか。

具体的には、会員へのスポーツ指導や、スポーツとの出会いを演出するスポーツ教室の実技指導を担当する競技別指導者やフィットネス系指導者などのコーチングスタッフが必要です。

また、会員が日常のスポーツ活動を安心して行うために、スポーツドクターやアスレティックトレーナーなどのメディカル・コンディショニングスタッフとの連携も必要となります。

## 今後期待されるスポーツ活動の場と必要なスタッフ



さらに、会員が継続的に快適なクラブライフを送るための環境を整備するとともに、クラブ内のそれぞれの指導者が、それぞれの立場で能力を活かして活動できる環境づくりと、クラブを健全に継続して運営するためのクラブマネジャーなどのマネジメントスタッフが必要となります。

全国的に「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成が進められている中、数多くの資質の高いスタッフが求められ、有資格指導者の新たな活動の場が広がります。

### 3 広域スポーツセンターとスポーツ指導者

#### 広域スポーツセンターの機能と役割

総合型地域スポーツクラブの創設や育成とともに、広域圏内におけるスポーツ活動全般について、効率的な支援を行う役割と機能を持った広域スポーツセンターが徐々に整備されつつあります。

広域スポーツセンターは、次の機能を持っています。

- ・総合型地域スポーツクラブの創設、育成に関する支援
- ・総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー、指導者の育成に関する支援
- ・広域市町村圏内におけるスポーツ情報の整備・提供
- ・広域市町村圏内におけるスポーツ交流大会の開催
- ・広域市町村圏内におけるトップレベルの競技者の育成に関する支援
- ・地域のスポーツ活動に対するスポーツ医・科学面からの支援

広域スポーツセンターは、広域市町村圏内の複数の総合型地域スポーツクラブを支援する機能を持つとともに競技者育成拠点としての機能を持つものとして期待されています。

また、その地域における総合型地域スポーツクラブのコンサルタントであり、コーディネーターでもあります。専門的知識を持ってクラブ経営を担当するクラブマネジャーの育成、スポーツ指導者の研修・派遣などを行うとともに、各クラブの個別の問題解決をも支援します。

したがって広域スポーツセンターには、スポーツ医科学施設・設備の充実、IT機能の強化、スポーツ情報の提供とともに、これらを効果的に機能させるためのマネジメント能力を持った人材や競技別指導者などの専門スタッフを配置することが必要となります。

広域スポーツセンターは、総合型地域スポーツクラブの育成並びに広域市町村圏内のスポーツ振興を図る中核的存在として、各地域の取り組みを体系的・計画的に支援していくことが期待されています。

## 広域スポーツセンターにおけるスポーツ指導者

実際に広域スポーツセンターが、その機能と役割を十分に発揮するためには、資質の高いスポーツ指導者の存在が不可欠です。

総合型地域スポーツクラブの創設・運営に関する支援であれば、クラブの経営・運営を健全に継続していくためのマネジメント能力を持った人材が必要なことはもちろんであり、その任に当たる人材はクラブマネジメントに関する専門的な知識・能力とともに、行政機関や各種スポーツ団体との連携協力を得るために必要な交渉に関する知識・能力を持っていることが要求されます。

広域スポーツセンターの行う事業としての巡回指導や競技者の育成強化のための合宿などでは、我が国における各競技統括団体である中央競技団体の競技者育成プログラム（一貫指導システム）を理解し、全国的に統一された指導方針に沿った指導が行われる必要があることから、特に資質の高い指導力を有した有資格指導者の存在は不可欠となるのです。

## 4 スポーツ少年団とスポーツ指導者

日本スポーツ少年団は、スポーツによる青少年の健全育成と生涯スポーツの芽を育てることを目的として、1962年6月に創設されました。以来、40数年を経て、関係者の情熱と努力により、団員・指導者合わせ112万人を擁する我が国最大の青少年スポーツ組織に成長しました。

しかし、今後、スポーツ少年団活動の一層の拡充を図っていくためには、青少年の体力の低下や続発する問題行動などの諸問題並びに学校週5日制の完全実施などを視野におき、地域における青少年のスポーツ組織として、青少年のスポーツ環境や一貫した指導体制等の整備と充実を図っていく必要があります。

また、少女をはじめ中・高校生の加入促進のための体制作りを行うとともに、地域社会との連携を考慮して、小学校期のみならず、中学・高校期以降の継続的なスポーツ活動を推進することができるジュニアスポーツクラブとしての基盤整備を図るなど、地域における多様な青少年スポーツ活動の受け皿としての充実策を検討していくことが求められています。

このような活動が、スポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブづくりに繋がり、それぞれの地域においてスポーツ少年団が中心的役割を担うこととなるのです。

また、21世紀をたくましく生きる青少年を育成していくためには、青少年のスポーツを振興し、心身の健全な育成・発達を促すとともに、自己責任やフェアプレイの精神、仲間との交流を通じたコミュニケーション能力や豊かな心と他人を思いやる心などを育成していく必要があります。スポーツ指導者の果たす役割が極めて重要となります。

発育・発達期の子どもたちを指導するスポーツ指導者は、スポーツ活動をめぐるマナーやエチケットに関する指導をはじめ、生涯スポーツの芽を育てるために、子どもたちの発育・発達段階、技能レベルや志向に応じた指導を行うとともに、特に幼少年期の子どもたちには遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行うことが大切となります。

ここでも、有資格指導者のさらなる活動が期待されています。

## 5 学校運動部活動とスポーツ指導者

学校運動部活動は、学校の指導のもとに学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心を持つ同好の生徒によって自主的に組織され、部員同士の切磋琢磨や自己の能力に応じてより高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しみや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動です。さらには、生涯にわたってスポーツに親しむ能力や態度を育て、体力の向上や健康の増進を図るだけでなく、学級や学年を離れて生徒が自発的・自主的に活動を展開することにより、自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに仲間や教師との密接なふれあいの場として大きな意義を有しています。

しかしながら、近年、少子化による運動部活動数の減少や顧問教師の高齢化・実技指導力不足等により少年期のスポーツ活動を行う場としての機能を十分に果たすことができなくなっています。

このことにより、多人数を必要とするチーム競技ではチーム編成ができず他校との合同部活動をせざるを得ない状況が生じたり、部活動の対象競技に自分の好きなスポーツがないことや競技志向が強く好きなスポーツを楽しくできないことからスポーツから離れてしまう状況が生じてきています。このような状況に対処するため、学校が必要に応じて外部指導者に協力を求めることができるなどの環境整備が一層促進されております。

また、文部科学省の「体力・運動能力テスト」では、1980年前後をピークに、青少年の基礎体力・運動能力が低下を続け、子どもたちの体力・運動能力不足が問題となっています。

このような中、学校運動部活動においても、外部指導者として有資格指導者の果たす役割はますます重要になってきます。有資格指導者は、学校運動部活動の意義や運営の在り方などを十分に理解した上で、子どもたちの心身の発育・発達に十分に配慮し、子どもたちのスポーツに対するニーズに合わせた指導を行い、スポーツの楽しみ方や取り組み方を指導するとともに、豊かな人間性の涵養に資することが期待されています。



ある人に  
魚を一匹与えれば、  
その人は一食を得る。  
魚の捕り方を教えれば、  
その人は生涯食べる

管仲(中国)

管仲は春秋時代、斉の宰相。この金言は、管仲の思想をまとめたといわれる『管子』に収められた一言。『管子』の中にはこの他にも「一つの手間で、一の利益を得るなら穀物を植える、十の利益を得るには木を育てる、百の利益を得るには人を育てる事だ」と、人材養成の重要性を説くものが多い。

スポーツは競技(コンペティション)である以上、指導者が勝利を目指した指導を行うことは当然。ただ勝利を求めるあまり指導を急ぎ、答えを与えてしまったとしたら、結局は競技者が生涯食べる(=スポーツに親しむ)指導にはならないだろう。

管仲がスポーツ競技者の育成を念頭に置いていたはずはもちろん無いが、この言葉がスポーツ指導者に示唆するものは重い。管仲が仕えた斉の桓公は凡庸といわれながら、春秋時代最初の覇者となった。今も昔も指導者の重要性は変わらないのである。